

若竹

第四十四号



慰問神楽 砥部保育園の園児達

愛媛県神道青年会

事務局 〒790-0008
松山市丸之内73-1
東雲神社内
TEL 089-921-8938
FAX 同上
URL <http://www.ehimeshinsei.net/>

巻頭言

愛媛県神道青年会

会長 和氣省一



本会は、今年で再発足いたしましたして三十三年を数えることとなりました。

数多の厳しい試練にさらされながら、こうして今日を迎えることができたのは、偏に、先

輩諸賢の熱誠あふれるご支援と、私たちの微志を善しとして県内各神社宮司皆様のご協力の賜物であり、衷心より厚く御礼申し上げます。

再発足以来、近年の会員数減少等、試練はいまだ厳しいものであります。むしろこの試練を好機と受け止め、役員一丸となつて更なる精進を重ねているところでございます。

昨今、情報がグローバルネットワークで配信され、情報が氾濫し散乱し、むしろ情報の垂れ流し状態といわれております。いまや爆発的に各家庭にインターネットが普及し、青少年犯罪の一端ともいわれ、知りたい情報以上の物も手に入れることができ、いまや「自己責任の判断と選択」が最も重要になってきております。現代に生きる

私たちにとつて、ある種、心地よい響きのある「自己責任の判断と選択」であります。これを前提とした社会が、陰惨で殺伐とした事件を生み出し、無味乾燥で自閉的に閉じこもった人間関係しか築けない、自己中心の我欲が大手を振って歩く、退嬰しやすい社会でもあるということを再認識し、私達も一つ一つの目で凝視し、今後の青年会活動の課題の一つとする必要があると思ひます。

最後に、今後先輩諸賢の真摯な御提言を最大限生かすべく、ここに改めて各会員のご意見、ご共同を願ひ申し上げる次第でございます。

慰問神楽

当会は九月に観月神楽の夕べ、三月に慰問神楽を開催しておりますが、本年も三月七日、伊予郡砥部町の砥部保育園において慰問神楽が開催されました。今回も南予から伊予神楽と、雅楽演奏、巫女舞を披露させていただきました。伊予神楽では、最後に鬼と園児が相撲を取り、楽しいひと時を過ごしました。

当会が主催する神楽の演奏は、観月神楽の夕べは県内の神社において奉納し、慰問神楽はいろいろな施設において演奏をさせていただいております。拙い演奏ではありますが、ご要望があれば出来る限り出向き、日本の伝統文化の継承に努めていきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。
(小野哲也)



伊予神楽 神躰細女之舞



第三十四回定時総会報告

去る平成十七年四月二十一日、国際ホテル松山に於いて第三十四回定時総会が開催されました。

任期満了に伴う役員改正後、初の総会となり、二十一名の会員の方々が出席されました。

開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、二期目の再選となった和気会長より挨拶があり、今後の抱負を述べられました。その後、武知理事が議長に選出され、議案審議へと移りました。

提案された「平成十六年度会務報告」「平成十六年度会計報告」「平成十六年度監査報告」「平成十七年度活動計画」「平成十七年度予算案」の五つの議案が審議され全て満場一致で承認されました。

総会の後、懇親会が催され多数のご来賓の方々の御出席を賜り盛会のうちに宴を閉じました。

また今期から、八幡浜市、八幡神社、禰宜、清家貞文さんと伊曾乃神社、権禰宜、高橋政裕さんが入会されました。今後は積極的に当会の活動に参加され交流の輪を深めていただき、更なる神明奉仕にご活躍されますようご祈念申し上げます。(阿部茂之)

神道青年四国地区協議会 設立十周年奉告祭

去る平成十七年五月十日(火)午前十一時三十分より、徳島県神社庁神殿に於いて、神道青年四国地区協議会設立十周年「周年報告祭」が、吉見地区協副会長齊主の下、祭員五名・舞人一名・伶人三名の奉仕により斉行されました。祭主長曾我部地区協会長を始め、四国四県の神社庁長・副庁長様、地区協OBの方々、会員の参列の中厳肅に執り行われました。当会からも、和気会長を始め参列・伶人奉仕併せて七名の会員が参加致しました。次第は次の通りです。

の会員が参加致しました。次第は次の通りです。

式次第

時刻齋主以下祭員参進是より先手水の儀あり

齋主以下祭員所定の座に著く

神事の前に国歌斉唱

次に当会物故者に対し黙祷

先づ 修祓

次に 齋主一拝

次に 神饌を供す

次に 齋主祝詞を奏す

次に 楽を奏す 「朝日舞」

次に 齋主玉串を奉りて拝礼

次に 参列者玉串を奉りて拝礼

次に 神饌を撤す

次に 齋主一拝

齋主以下祭員退下

次に 直会

本年は十周年の記念事業が、各四国四県それぞれの単位会担当により行われます。その初めとなります「周年奉告祭」に参加をして、参加者それぞれ今までを振り

返り、これからの考えられた事と思いません。最後に、「周年奉告祭」を担当されご尽力いただきました徳島県青年神職会の皆様に紙面をお借りして御礼の言葉を申し上げます。(田内 逸知)



地区協 設立十周年奉告祭

平成十六年度 神道青年全国協議会 神宮研修会に参加して

(平成十七年 三月二十三日～二十四日)

三月二十三日早朝。JR・近鉄電車にゆられつつ神宮研修会に参加の為、伊勢市へと向かいました。当会よりは和気会長・長曾我部副会長・十亀事務局長が参加し、雨の降る中ではありましたが、全国の青年神職 約三百名が凜とした雰囲気の中、神宮会館へ参集致しました。顔見知りの先輩・同輩・後輩と懐かしい挨拶を交わしつつ白衣・白袴へ更衣し、開講式へと向かいました。この神宮研修会は終日白衣・白袴となり、今までの中央研修会とは一味違う何かを感じました。今回の研修会は「神宮式年遷宮 く真姿顕現にむけ国民総奉賛をめざして」と題し行われました。講師として小堀邦夫先生・河合真如先生をお迎えし、平成二十五年の遷宮に向けて、意義や歴史、また広報活動について等講演を戴きました。中でも遷宮が「二十一年に一度」これ

は何を意味するか・・・よく耳にしますが「世代技術継承説」ですが、そうではなく、租税。いわゆる国民が納めた税(ぜいしちから)が貯められ、それにより遷宮が行われた。また、そのことに對して日本人は当たり前のことだと思っていたそうです。遷宮という一大事を身近に感じつつ、誇りに思っていたのだと感じました。

翌日は分科会となり六つの科に分かれ、それぞれでの勉強会となりました。和気会長と私は「神宮の御料地について」として神田や御園・御塩浜を見学させて戴きました。最近ではデパートやスーパーに行けば何でも食べ物が入る時代ですが、その季節々の「旬」を大事にする思いが伝わりました。また、子供たちに四季の大切さ・収穫の喜びを伝えていく事も重要な事であると改めて考えさせられました。

今次行われる第六十二回の式年遷宮。私も前回の遷宮はご奉仕をさせて頂きました。

したが、感動の思いでありました。また、今年より遷宮へ向けての各種神事が行われます。本宗と仰ぐ神宮式年遷宮が国民総奉賛のもと行われる為にも、斯界の尖兵である我々が率先して神宮教化に尽力しなければならぬと感じました。

今回主管をお取り戴いた神道青年東海地区協議会・担当、三重県神道青年会の皆様に厚く御礼申し上げ、十七年度は中国地区が主管、鳥取県での開催となります。単体会内でも数多くの会員が参加し、互いの研鑽に役立てればと思いつつ、ご報告と致します。(十亀 博行)



神宮研修会

平成十六年度 会務報告

起・平成十六年四月 一日
至・平成十七年三月三十一日

平成十六年

- 四月 八日 第一回役員会【伊豫豆比古命神社】
(十名出席)
- 二十二日 神青協五十五周年記念式典【明治記念館】
(五名出席)
- 二十三日 神青協五十六回定例総会【神社本庁】
(和気会長・長曾我部副会長出席)
- 五月 十日 第二回役員会【国際ホテル松山】
(十三名出席)
- 十日 第二十三回定時総会【国際ホテル松山】
(二十一名出席)
- 並びに懇親会 【国際ホテル松山】
(来賓含め三十一名出席)
- 六月 二日 神道青年四国地区協議会第一回役員会
【愛媛県・国際ホテル松山】
(和気会長以下九名出席)
- 二十一日 神青協「北方領土返還祈願碑」における
二十一日 四島一括返還祈願祭【北海道・根室】
(長曾我部副会長出席)
- 七月 五日 女子神職会総会【ホテル奥道後】
(和気会長出席)
- 二十・ 神青協夏期セミナー【神社本庁】
二十一日 (矢野副会長以下五名出席)
- 二十九日 第二回役員会【伊豫豆比古命神社】
(八名出席)

八月

- 四日 神道青年四国地区協議会第十回総会
- 五日 並び研修会【徳島県・徳島県護国神社】
徳島ワシントンホテルプラザ
(和気会長以下八名出席)
- 二十四・ 四万十川体験親睦会【高知県・十和村】
二十五日 (三十名参加)

九月

- 二日 四国地区協議会第七回神道行法錬成会
【香川県・国分八幡宮】
(和気会長以下四名出席)
- 三日 第二回四国地区協議会役員会【高松市】
(和気会長以下四名出席)
- 十一日 観月神楽の夕べ【松山市・井手神社】
- 十五日 初詣ポスター送作業
第四回役員会【愛媛県神社庁】
(八名出席)

十月

- 二十九日 第五回役員会【伊豫豆比古命神社】
(八名出席)

十一月

- 十一日 神青協 臨時総会【神社本庁】
(和気会長以下三名出席)
- 十二日 愛媛県神社庁協議員会【愛媛県神社庁】
(和気会長出席)
- 二十五日 第六回役員会【伊豫豆比古命神社】
(八名出席)
- 二十五日 三島・森田両烈士慰霊祭
【伊豫豆比古命神社】
(和気会長以下八名奉仕)
- 二十五日 役員忘年会【松山市】
(十名出席)

十二月

- 二日 神道青年四国地区協議会第三回役員会
【高知県神社庁】
(和気会長以下六名出席)

平成十七年

- 一月 十九日 年頭正式参拝【愛媛県護国神社】
(和気会長以下十名参列)
- 十九日 第七回役員会【国際ホテル松山】
(十名出席)
- 十九日 臨時総会【同右】
(二十一名出席)
- 十九日 新年研修会【同右】
【式年遷宮と神宮大麻の意義について】
講師 森 正康 先生(二十二名出席)
- 十九日 新年互礼会【同右】
(二十四名出席・来賓多数)
- 二月 十一日 建国記念の日奉祝大会【県内三会場】
(各会場役員出席)
- 二十一日 第八回役員会【伊豫豆比古命神社】
(九名出席)
- 三月 七日 財閥神楽【砥部町・砥部保育園】
(和気会長以下十名奉仕)
- 二十三日 平成十六年度 神道青年全国協議会
- 二十四日 神宮研修会【神宮及び神宮会館】
(和気会長以下三名出席)
- 二十九日 第九回役員会【伊豫豆比古命神社】
(十三名出席)

愛媛県神道青年会

平成16年度一般会計歳入歳出決算書

自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日

歳入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	増減(△減)	付記
1 会費	650,000	700,500	50,500	年会費・臨時総会費・新年互礼会会費・役員忘年会会費
2 助成金	200,000	200,000	0	愛媛県神社廳助成金
3 寄付金	1,300,000	1,651,000	351,000	県内神職寄付金・諸事業助成金
4 雑収入	275,212	454,060	178,848	神育協事業還付金・事業収入(床几頒布他)
5 繰越金	684,788	684,788	0	平成15年度より
歳入合計	3,110,000	3,690,348	580,348	

歳出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	増減(△減)	付記
1 会議費	750,000	892,841	142,841	定時総会・新年互礼会・役員会・役員忘年会・監査会
2 研修教化	550,000	553,000	3,000	観月神楽・慰問神楽・地区協總會研修会参加費(8名分) 神宮研修会参加費(3名分)・夏期セミナー参加費(5名分)
3 事業費	700,000	527,100	△172,900	初詣啓蒙ポスター
4 広報費	250,000	175,745	△74,255	若竹42号、43号作成発送・ホームページ拡張費
5 事務費	100,000	53,809	△46,191	領収書他事務用品・振替手数料・事務局手当
6 備品費	10,000	0	△10,000	
7 旅費	300,000	380,000	80,000	神育協出向補助
8 慶弔費	50,000	12,026	△37,974	慶弔金・電報代
9 分担費	305,000	302,500	△2,500	神育協及び地区協總會出金・各種友好団体年会費
10 交通費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑支出	20,000	21,940	1,940	研修講師御礼品
12 予備費	25,000	0	△25,000	
歳出合計	3,110,000	2,968,961	△141,039	

歳入合計 ￥3,690,348

歳出合計 ￥2,968,961

差引残高 ￥721,387

平成17年度に繰越

平成17年4月1日 愛媛県神道青年会 会長 和氣 省一 提出

上記のとおり相違ない事を認めます

平成17年4月1日

監事 吉田 充興 ㊟
監事 眞鍋 豊孝 ㊟

平成十七年度 愛媛県神道青年会 活動計画

本年度における重点目標

- ◎ 広報活動の強化（ホームページの充実・会報「若竹」の発刊）
- ◎ 会員相互の親睦を深める
- ◎ 地区協十周年事業の充実と成功

四月二十一日	定時総会（松山）
四月二十七日	神青協定例総会（神社本庁）
五月 十日	神道青年四国地区協議会 設立十周年奉告祭（徳島県神社庁）
五月 十日	神道青年四国地区協議会 第一回役員会（徳島）
六月	会報「若竹・第四十四号」発行
七月二十六日 二十七日	知ろう学ぼうお伊勢さん 「親子体験学習」（伊勢）神青協
八月 二日	神道青年四国地区協議会 設立十周年 記念式典・記念講演並総会（高知）
八月 十九日 二十日	第二回四万十川体験親睦会
八月二十九日 三十日	神青協夏期セミナー（神社本庁）
九月 八日 九日	神道青年四国地区協議会 設立十周年 第八回神道行法練成会（愛媛）

九月	神青四国地区協議会 第二回役員会（愛媛）
九月	第二十三回観月神楽の夕べ
九月下旬	初詣ポスター発送作業（愛媛県神社庁）
十一月二十五日	三島・森田両烈士慰霊祭
十二月	神道青年四国地区協議会設立十周年 親睦ボーリング大会（香川）
十二月	神青四国地区協議会 第三回役員会（香川）
一月	新年研修会・互礼会
一月	会報「若竹・第四十五号」発行
三月二十三日 二十四日	神道青年全国協議会 「中央研修会」（鳥取県米子市）
未定	慰問神楽演奏

愛媛県神道青年会

平成17年度一般会計歳入歳出予算書

自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日

歳入の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付記
1 会費	650,000	650,000	0	年会費・新年互礼会費他
2 助成金	200,000	200,000	0	愛媛県神社廳より
3 寄付金	1,300,000	1,300,000	0	県内神職寄付金・行事助成金
4 雑収入	275,212	238,613	△36,599	神青協事業還付金・事業収入
5 繰越金	684,788	721,387	36,599	平成16年度より
歳入合計	3,110,000	3,110,000	0	

歳出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付記
1 会議費	750,000	750,000	0	総会・役員会・新年互礼会 他
2 研修教化	550,000	550,000	0	観月神楽・慰問神楽・新年研修会 ・各種研修会参加助成 他
3 事業費	700,000	650,000	△50,000	初詣啓蒙ポスター・床几頒布事業
4 広報費	250,000	250,000	0	若竹発刊「第42号」「第43号」、 HP 拡張費
5 事務費	100,000	100,000	0	領収書其他事務用品 ・寄付金其他振替手数料
6 備品費	10,000	10,000	0	
7 旅費	300,000	350,000	50,000	神青協総会・神青協役員旅費補助 他
8 慶弔費	50,000	50,000	0	慶弔金・電報代
9 分担費	305,000	305,000	0	神青協及び地区協賛出金 ・各種友好団体年会費
10 交通費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑支出	20,000	20,000	0	
12 予備費	25,000	25,000	0	
歳出合計	3,110,000	3,110,000	0	

歳入合計 3,110,000円

歳出合計 3,110,000円

差引残高 0円

平成17年3月29日 愛媛県神道青年会役員会提出

【助成金】

金貳拾萬圓也 愛媛県神社庁 殿

【平成十六年度寄付助成ご芳名・順不同】

東予地区

金壹拾萬圓也

石鎚神社

十亀 興美 殿

金伍萬圓也

大山祇神社

三島 喜徳 殿

金參萬圓也

一宮神社

矢野 哲夫 殿

神社庁

新居支部 殿

金壹萬圓也

神社庁

大三島支部 殿

伊曾乃神社

井上 千賀司 殿

多伎神社

沼崎 守文 殿

姫坂神社

沼崎 守文 殿

潮早神社

浅海 宜英 殿

白山神社

大岡 益子 殿

萩岡神社

大岡 忠臣 殿

吹揚神社

田窪 久 殿

石岡神社

越智 基晃 殿

橋新宮神社

高橋 佳幹 殿

三嶋神社

堀川 泰規 殿

嘉母神社

石川 漠見 殿

金壹萬圓也

大浜八幡大神社

桧垣 杜次 殿

今宮神社

佐藤 伊都男 殿

村山神社

榊田 三雄 殿

熊野神社

田邊 捷 殿

綾延神社

森 正康 殿

生名八幡神社

西村 純子 殿

飯積神社

葛城 光彦 殿

大井八幡大神社

榑部 浄文 殿

三島神社

垂水 隆昌 殿

玉生八幡神社

平田 彰 殿

風伯神社

矢野 正實 殿

高浜八幡神社

龜山 和麿 殿

須賀神社

藤原 裕博 殿

金伍阡圓也

金生八幡宮

合田 正士 殿

八幡大神社

安藤 潔 殿

三皇神社

熊本 真克 殿

喜多浦八幡大神社

馬越 祥穂 殿

奈良原神社

竹之内志磨子殿

奈良原神社

馬越 和紀 殿

黒嶋神社

近藤 史孝 殿

三島神社

真鍋 靖 殿

大西神社

及川 徹也 殿

碓掛天満宮

小池 清史 殿

金參阡圓也

上分神社

熊本 真克 殿

弓削神社

宮原 浄人 殿

土居神社

矢野 耕一郎 殿

岩城八幡神社

八原 敬睦 殿

中予地区

金壹拾萬圓也

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭 殿

金伍萬圓也

愛媛縣護國神社

波爾 莊 殿

金參萬圓也

神社庁

松山支部 殿

金貳萬九阡圓也

神社庁

伊予支部 殿

金貳萬圓也

神社庁

久万支部 殿

大宮八幡神社

眞鍋 和敏 殿

殿島神社

柳原 宰 殿

伊豫稻荷神社

星野 暢廣 殿

金壹萬圓也

三嶋神社

横田 清光 殿

三島神社

能田 隆三 殿

桑原八幡神社

石丸 典良 殿

雄郡神社

高市 誠司 殿

金老萬圓也	還熊八幡神社	玉井 次明 殿
金刀比羅神社	山下 幸志 殿	
井手神社	横田 貞子 殿	
波賀部神社	武智 彰宏 殿	
高家八幡神社	都子野 清明殿	
恵依彌二名神社	高市 慶久 殿	
東雲神社	田内 逸武 殿	
三嶋大明神社	武智 和子 殿	
高繩神社	正岡 重岩 殿	
三奈良神社	森 正史 殿	
白山神社	高市 守久 殿	
早虎神社	立野 好仁 殿	
湊三嶋大明神社	渡部 定詔 殿	
正八幡神社	権名津 千風殿	
松山神社	正岡 一男 殿	
勝岡八幡神社	武智 輝子 殿	
金伍阡圓也	武智 成保 殿	
天満神社	大内 信麿 殿	
阿沼美神社	高市 俊次 殿	
三島神社	重松 長英 殿	
金伍阡圓也	重松 盛明 殿	
船越和氣比売神社	武智 盛明 殿	
廣田神社	重松 讓 殿	
正八幡神社	重松 讓 殿	

金伍阡圓也	徳威三嶋宮	別府 頼房 殿
諸山積神社	武智 昭彦 殿	
三島神社	玉井 貞臣 殿	
築島神社	渡部 正巳 殿	
朝日八幡神社	田内 一弘 殿	
八坂神社	都築 芳憲 殿	
伍社天神社	都築 芳憲 殿	
新田八幡神社	都築 芳憲 殿	
新田神社	都築 芳憲 殿	
三島神社	都築 芳憲 殿	
天満天神社	都築 芳憲 殿	
立石神社	都築 芳憲 殿	
南山神社	都築 芳憲 殿	
阿沼美神社	田内 逸和 殿	
高岸三島神社	武智 啓 殿	
天一稻荷神社	武智 純二 殿	
高忍日売神社	後藤 正宜 殿	
玉生八幡大神社	高市 良史 殿	
金式阡圓也	三好 捷三 殿	
若宮八幡神社	三好 捷三 殿	

南予地区	金七萬圓也	三輪田元亮 殿
和霊神社	金式萬圓也	八幡浜分会 殿
神社庁	神社庁	喜多郡分会 殿
八幡神社	金老萬圓也	吉岡 太郎 殿
神社庁	三島神社	宇和島分会 殿
三島神社	稲荷神社	松浦 正樹 殿
総社大明神社	諏訪神社	高市 節子 殿
金伍阡圓也	神社庁	森本 隆夫 殿
八幡神社	大元神社	石村 聖 殿
大元神社	多賀神社	南宇和郡支部殿
天満神社	黄幡神社	清家 貞宏 殿
宇都宮神社	大元神社	井上 直隆 殿
金參阡圓也	大元神社	久保 盛浩 殿
大元神社	大元神社	宮本 稚秋 殿
大元神社	大元神社	青木 武司 殿
大元神社	大元神社	宮岡 賢二郎殿
大元神社	大元神社	矢野 賀久 殿

【定時総会御祝金】

金老萬圓也

伊豫豆比古命神社

三島神社

愛媛縣護國神社

大宮八幡神社

蔽島神社

熊野神社

伊豫稲荷神社

高忍日売神社

櫛玉比売命神社

金伍阡圓也

長曾我部延昭殿

松浦 正樹 殿

波爾 莊 殿

眞鍋 和敏 殿

柳原 幸 殿

田邊 捷 殿

星野 暢廣 殿

後藤 正宜 殿

井上 真人 殿

愛媛県神社庁 殿

愛媛県女子神職会 殿

【親月神楽の夕べ御祝金】

金老萬圓也

伊豫豆比古命神社

愛媛県神社庁 殿

長曾我部延昭殿

【臨時総会・新年互礼会御祝金】

金弐萬圓也

石鎚神社

金老萬圓也

三島神社

愛媛縣護國神社

伊曾乃神社

高忍日売神社

三島神社

十亀 興美 殿

愛媛県神社庁殿

松浦 正樹 殿

波爾 莊 殿

井上千賀司 殿

後藤 正宜 殿

吉田 充邦 殿

愛媛県女子神職会殿

頒布品のご案内

四人掛床几

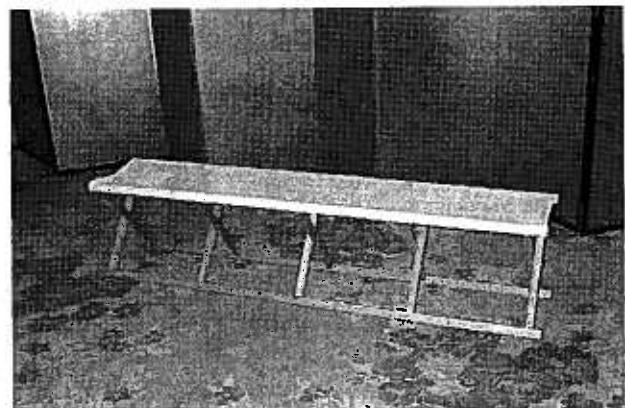
長さ一八〇センチメートル

幅 三三センチメートル

高さ 四四センチメートル

耐水幌布使用

◆一脚 一七、〇〇〇円◆



ご注文・お問い合わせは

千七九〇・〇〇〇八

松山市丸之内七三一 東雲神社内

愛媛県神道青年会 事務局 田内逸知

電話〇八九・九二一・八九三八

FAX 右同

神道青年四国地区協議会
設立十周年
第八回 神道行法錬成会
開催の御案内

神道青年四国地区協議会が設立され、本年が十周年の慶祝の年となります。

現在四国四県が各記念事業を計画し進めているところですが、愛媛県の担当として表記の神道行法錬成会を行います。

今回の錬成会は一泊二日、禁酒・禁煙、また食事もおかゆを中心となります。内容も充実したものとなっていますので、当単位会の会員から多くのご参加を賜りたく、ご案内致します。

(担当 十亀 博行)

記

一、開催日
平成十七年九月八日(木・赤口)
・九日(金・先勝) 一泊二日
一、集合場所
愛媛県西条市西田甲七九七
石鎚神社

TEL 〇八九七―五五―四〇四四

一、講師

講演・・・石鎚神社
宮司 十亀 興美 先生
道彦・・・三島神社
宮司 佐藤 豊 先生
助彦・・・國分八幡宮
宮司 森口 義文 先生
一、参加費 六、〇〇〇円 (一泊二食込み)

一、持参品

白衣・白袴・白足袋・草履・禪・白鉢巻・筆記用具・寝間着・洗面用具 他

※錬成会中は禁酒・禁煙です。

※日程修了者は愛媛県神社庁研修所より一・五日間の修了証が授与されます。

※ひふみの祓詞・十種神寶大御名を暗記の上ご参加下さい。

一、申込

事務局長を通じてお願いします。

神道青年四国地区協議会 設立十周年

第八回 神道行法錬成会

日程表

9月8日(木・赤口)		9月9日(金・先勝)	
13:00	集合・受付・更衣	5:30	起床
13:30	正式参拝・写真撮影	6:00	禊
14:00	開講式	7:00	朝拝
14:30	講演 石鎚神社 宮司 十亀 興美 先生	7:30	境内清掃
15:30	休憩	8:00	朝食
15:45	禊・鎮魂法 講話	9:00	鎮魂
	(途中休憩含む)	11:00	閉講式
18:00	夕食		更衣・解散
19:00	鎮魂行・夕拝		
21:00	入浴・就寝		

～愛媛県神道青年会主催～

『第2回四万十川体験親睦川下り大会』

【とき】 平成17年8月19日（金）先負～20日（土）仏滅

【ところ】 高知県四万十市西土佐及び幡多郡十和村
（松山インターからおよそ2時間半）

【趣旨】 日本最後の清流といわれる高知県四万十川の自然に触れ合うと共にその厳しさを体験しながら会員相互の親睦はもとより会員の家族子弟を含めた親睦を深めることを目的とする。

【参加資格】 愛媛県神道青年会役員・会員・OB、またその家族・子弟、当県神社界に携わる者

【概要】 8月19日：夕刻（不定時） 高知県四万十市西土佐 カヌー館 集合
懇親会開催一宿泊

（ログハウス・バンガロー予約済み 空調完備）

8月20日：午前10時～カヌー・カヤック講習 基礎講習後、希望者は川下り。

高知県幡多郡十和村昭和交流センター前

（芝生の広場あり・トイレ・食堂あり・幼児の水遊びに適）

午後4時前閉会

※ 基本的に雨天決行ですが予想を超える状態（台風・災害など）の場合は安全確保の為に中止する場合があります。

【注意事項】 宿泊場所や交通手段に多少の不便をおかけするとは思いますが御了承下さい。また会よりの補助を超える予算の取り扱いについては参加者全員での分担となります事をご理解下さい。予算の目安に関しましては下記の項目をご参照下さい。尚開催地までの交通費等は自己負担となります。



【必要経費】 ご負担いただく経費に関しましては下記のとおりです。20日当日のみの参加の方は参加料は無料です。

大人1人当たり5,000円 小学生以下1人当たり1,500円

【必要品】 宿泊場に布団はございますが、数に限りがございますのでタオルケットやその他寝具をご用意いただいたほうがよろしいかと思えます。その他、着替え・洗面用具・メガネの方はメガネバンド・コンタクトの方は水中メガネ(カヌー講習時に必要)・その他個人に必要なものをご用意下さい。

【その他】 愛媛県神道青年会主催ではありますが参加者全員で作りに上げる行事ですので皆様の寛大な心でのご協力をお願い申し上げます。

宿泊に関しては、ログハウス・バンガロー等を用意させていただいておりますが、テントサイトをご利用になりたい御希望がございましたらその旨ご連絡下さい。

カヌー・カヤックに関しましてはカヌー経験者が補助させて頂きます。保険に関しては参加者全員にかけさせていただく予定です。カヤック(一人乗りの艇)・インフレーターカヌー(ゴムボート状のカヌー)・ラフト(大きなゴムボート)など準備する予定ですので、お子様と一緒に遊べます。選艇は可能な限り参加者の希望に添う様に致します。ご不明な点やお問い合わせがありましたら下記にご連絡下さい。

【申し込み締め切り】 7月20日(水)出来るだけ早めにお申し込み下さい。

別紙のFAX用紙にてお申し込み下さい。

FAX 0892-58-2274 小野哲也

【お問い合わせ】

◆愛媛県神道青年会 四万十川体験懇親川下り大会実行委員長

小野 Tel 090-5915-0990

◆愛媛県神道青年会事務局

東雲神社 田内 090-7370-6078



★青年会御卒業★

定時総会に於いて、規定年齢（四十歳）をお迎えになり、当会を御卒業される先輩方をご紹介致します

石鎚神社 権宮司

武智 正人 様

宇和津彦神社 禰宜

吉田 充興 様

三島神社 宮司

一宮 康人 様

永年に亘り当会の活動にご尽力賜りまして誠に有り難う御座いました。会員一同感謝申し上げます。

今後尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう御願い申し上げますと共に益々の御活躍を御祈念申し上げます。

★新入会員紹介★

伊曾乃神社 権禰宜 高橋政裕



愛媛県神道青年会の発展のために努めて参りますので何卒よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

八幡神社 禰宜 清家貞文



東京、香川を経由して帰郷いたしました。ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

★結婚おめでとうございます★

新理事 阿部茂之君・陽子さんが昨年十一月に目出度く御結婚されました。



「まだまだ若輩者ですが、今後より一層、一神職として精進して参ります。妻、陽子共々ご指導ご鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。」

末永くお幸せに！

★編集後記★

今号の若竹から編集担当になりました広報部会一宮と申します。慣れない作業でしたのでご不満の点多々あると思いますがご了承願います。また、ご意見ご提案ございましたらお気軽にお申し出下さい。